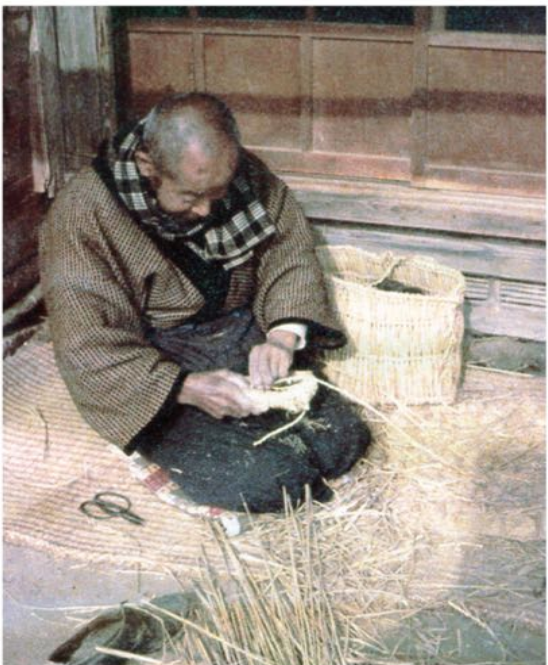


ていねいな暮らしのあつたころ

佐野二彦の撮った伊深の里山

わら仕事は、子どもも手伝いました。父親の脇で一緒に「わら打ち」や「縄ない」をし、やり方を覚えしました。高学年になると、わら草履が一通り作れるようになりました。

学校への行き帰りの履物は、雨の日はげた、普段はわら草履でした。また遠足の時は、鼻緒や横緒が切れることがあったため、帰りのわら草履を腰に下げて出かけました。



「わら仕事①」 昭和43年1月撮影

「わらで作る」

昔は、わら草履やミノといった身に着けるものから、オヒツ入れやビク(棒でつって運ぶもの)などの道具まで、生活の中にはわらで作られたものがたくさんありました。わら仕事は、夜なべや冬の農閑期に行いました。

右の写真は、ビクと鍋敷きを作っている様子です。下の写真のビクの前には、俵を作るときに使う道具の一部が見えます。



「わら仕事②」 昭和43年1月撮影